

レポーター：学芸員の後藤さんです。後藤さんよろしくお願ひします。

学芸員：よろしくお願ひします。

レポーター：後藤さん、こちらにかわいいですね。牛ですか。

学芸員：これですね、背中にこぶがあるこぶ牛という牛。

レポーター：こぶ牛。ほんとですね。背中のところ。大きなこぶが。へえ～、これは
どういった作品なんですか。

学芸員：こぶ牛をですね、まあ土で焼いて作ったまあ土偶なんですね。

レポーター：土偶。

学芸員：で実はすごく古くて、今からだいたい 4000 年くらい前のインダス文明の時代
の出土品です。

レポーター：んー。インドの人達にとっては、牛は何か神聖なものなんですか。

学芸員：そうですね。インドとかパキスタンとかあの辺の地域にですね、たくさん昔か
らいたことがわかってまして、非常に昔からですね、神聖な動物として扱われてきた
ことがわかってきています。

レポーター：へえー。これはどういうときに使われるというか。

学芸員：よくわかっていないんですけど、こういったものがこう遺跡からたくさん同じ
ところから出てくるんですね。

レポーター：へえー。

学芸員：おそらく牧畜っていうかまあ家畜として、大事にされてきた動物ですからこう
いったものを何らかの儀式で、たくさん作ってですね、人々に恵みをもたらすように
という、まあ祈りをこめて作られたものじゃないのかなと考えられて。

レポーター：一つ一つ表情も違うんですね。

学芸員：そうですね。

レポーター：ふうーん、こぶの大きさも違うし。かわいらしいですね。何か温かみがあ
りますね。後藤さん、ずっとこれさっきから持ってますけどなんですか。

学芸員：これはですね、こぶ牛の土偶がグッズになりましてですね。あのこれまで、展
覧会なので出品させていただいて、とても人気がありまして、こぶうしくん、という
愛称があります。

レポーター：かわいいですね。

学芸員：この度、福岡市文化芸術振興財団さんのご協力で、付箋という形でですね、グ
ッズとなりました。

レポーター：へえー、後藤さん、これはどこで購入できるんですか。

学芸員：これは2階のブックショップに売っております。

レポーター：2階のブックショップ。私も今日は是非買って帰ろうと思います。

学芸員：お願ひします。